



JADR

Japanese Association
for Dental Research

August, 2013

第 2 回国際歯科研究学会アジア太平洋地区学術大会 (2nd IADR-APR Meeting) の報告

JADR 会長 高橋信博

(東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座口腔生化学分野)

サワディー・カブ！（こんにちは！）

第 2 回 IADR アジア太平洋地区歯科研究学会 (2nd IADR-APR Meeting) が、2013 年 8 月 21～23 日タイ・バンコクにて、IADR 会長 Helen Whelton 先生、IADR 事務局長 Christopher Fox さんをお招きして開催されました。雨期の最中でしたが、雲間から太陽が顔を覗かす南国らしい鮮やかで眩しい光の中、「We are the FUTURE!」というコンセプトのもと盛大な会となりました。

演題数 879、アジア太平洋地区はもとより世界 40 カ国から参加者数 1424 名（当日登録者一部未集計）という、大変国際色豊かな学会となり、アジア太平洋地区が、アメリカ地区、ヨーロッパ地区に続く、第三の歯学研究拠点として存在感を増していること、そして世界が注目していることを実感させます。

アジア太平洋地区 (Asia/Pacific Region: APR) は IADR を構成する 5 つの地区 (region) の 1 つであり、Japanese Division (JADR) をはじめ、今回の主催部会 Southeast Asian Division、そして Korean、Chinese、Indian、Australia/New Zealand の各 Division と Pakistan、Mongolian の各 Section から構成されています。APR Meeting は 3 年に 1 度、APR の各 Division の共催で開催され、2009 年の中国 Wuhan 大会に続き 2 度目となり、今回は Southeast Asian Division 会長の Pasutha Thunyakitpisal 先生 (Chulalongkorn University、Thailand) を会頭に開催されました。Japanese Division は APR で最大、IADR 全体で American Division に続く世界第 2 位の規模を誇ることから、今回も参加人数とともに先進的研究発表を大いに期待されていました。その期待を裏切ることなく、Japanese Division からは 227 演題と参加国中最も多く演題が出され、参加者数は 333 名と主催国タイの 446 名に次いで第 2 位となりました。もちろん、研究発表の質も大変高いものであり、Japanese Division の presence を大いに示すことができました。

JADR が企画した JADR Mini Symposium も会場から溢れるほどの聴衆が集まり、大変活発な討論が行われました。これは前回に続く 2 度目の企画ですが、日本からの研究発信として継続していきたいと思えます。演者の 4 名の先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。さらに、今回はじめて行われた APR の Joseph Lister Award Competition (学部生の研究発表賞) では、JADR 代表として月本翔太さん (広島大学歯学部)、中井健人さん (昭和大学歯学部) がみごとな発表をされました。JADR 学術奨励賞にも多数応募いただき、日本の若手の高い研究活性を示していただきました。日本はまだ「一日の長」があるものの、その他のアジア太平洋地区の国々の進歩は著しく、追いつかれるのは時間の問題と言えるのかもしれませんが、日本はこれまで以上に、独創

的かつ先端的な歯学研究を行うと共に、その研究成果を歯科医療・保健へ活かす臨床研究を進める必要であると実感しました。

今回の APR Meeting は、研究はもちろんですが会員の懇親も盛大に行われました。初日朝の Welcome Ceremony での派手な演出から始まり、初日夜の Welcome Reception の最大のイベントは、各部会が行う出し物 (Divisional Show) でした。Australia/New Zealand Division 学生によるフィジーの伝統的な踊りに始まり、Chinese Division 学生による優雅な古典舞踊が続き、3 番目に登場した Japanese Division は、Reception に集まった大勢の日本からの参加者と共に、Sukiyaki Song (上を向いて歩こう) を歌いました。今里聡先生 (JADR 理事・大阪大学) のプロ顔負けの MC、天野敦先生 (JADR 理事・大阪大学) の強力なサポートのもと、1 番は日本語で、2 番は「ラララ」で会場の皆さんと合唱を行いました。ステージから溢れんばかりの大勢の先生方にお集まりいただき、会頭の Pasutha 先生も加わっての大合唱となりました。最後には会場が一体となった大合唱となり「アジア太平洋地区の一体感」を実感することとなりました。Reception 終了後「Japanese Division の Show はとても良かった」と多くの参加者からお褒めいただきました。今里先生、天野先生をはじめ、ご協力いただきました先生方には改めて御礼申し上げます。

Australia/New Zealand Division の方が、「アジアに来ると落ち着く、言葉はあまり通じないがとても安心できる」としきりに言っていました。また、IADR 会長の Whelton 先生が「APR 諸国は母国語が違うのに、何故、お互い和やかに楽しげに付き合っているのですか？」と聞いてきました。「We have some similarity in mentality or the way of thinking, and we respect each other」が私の答えでした。言葉という難しさはあっても、アジア太平洋地区に共通する雰囲気、人々の気質、物腰、考え方などがあることを、改めて感じさせられました。皆様はどう感じられたでしょうか。

閑散となりがちな閉会式ですが、今回は大変多くの方が集まりました。各 Division の挨拶、IADR 会長、IADR 事務局長の挨拶に続き、準備委員会のメンバーひとり一人に感謝状が配られ、感動的なフィナーレとなりました。私を含む JADR 理事会メンバーの畏友である会頭の Pasutha 先生、そして実行委員会メンバーの大車輪の大活躍で、盛大でありながらもどこか穏やかで「微笑みの国」タイらしい素敵な大会でした。改めて Pasutha 先生をはじめ、Southeast Asian Division の皆様、アジア太平洋地区の会員の皆様、そして JADR 会員の皆様に心より感謝申し上げます。

次回の 3rd IADR-APR Meeting は、2016 年 6 月、韓国ソウルにて、IADR 学術大会・総会と併催されることとなります。今回にも増して多くの JADR 会員の皆様のご参加をお待ちしております。